



麻布地区旧町名由来板

あざぶひろおちよう 麻布広尾町

地名の起源には種々の説があります。もとは広岡とか、平尾とか、広野とかいろいろいわれていますが定かではありません。現在の渋谷区へまたがる低地一帯は広尾原と呼ばれ、江戸時代の初期の頃は荒野であったと想像されます。しかし延宝年間(1673~1681)頃までに、今の有栖川宮記念公園の入口付近に百姓町屋ができあがっており、それ以外のところは武家地と畑地が半々くらいになっていました。正徳3年(1713)に町奉行の支配となり麻布広尾町となりました。

あざぶしんひろおちよう 麻布新広尾町一丁目~三丁目

古川沿いの土地で、天現寺橋から一の橋に至る長い町域をもっています。麻布新広尾町としたのは麻布広尾町の人に移転しはじめたのによるものらしく、番地も広尾町が79番地で終わるのに対し、新広尾町は80番地より始まっています。

あざぶしんぼりちよう 麻布新堀町

町は東流してきた古川が北へ屈曲する部分の左岸にあります。「御府内沿革図書」によると、江戸時代初期から町域のほとんどが武家屋敷でした。明治5年(1872)、武家地を合併して麻布新堀町となりました。町名は、町の東と南の二方が新堀川(古川)に沿うことに由来します。

あざぶたけちよう 麻布竹谷町

町名は、古来、里俗に竹ヶ谷と呼んだことに由来します。別に、「ねくるみ村」とも呼ばれ、うぐいすの名所として菓立野とも呼ばれました。「うぐいすを たづねたづねて 阿左布まで」という芭蕉の句は菓立野と呼ばれたことと関係があるのかもしれませんが。明治5年(1872)、武家地を合併して麻布竹谷町となりました。

あざぶたじまちよう 麻布田島町

元禄(1688~1704)から享保(1716~1736)にかけて新堀向と俗称したようですが、近傍に三田龜塚の代地二ヶ所、西久保天徳寺領屋敷があるのを併せて田島町を名乗ったといえます。その頃周囲はなお田であったので「田の中の島のような町」との意味だとい説もありますが、本当のところははっきりしていません。

あざぶふじみちよう 麻布富士見町

盛岡町の台地が古川へ望む傾斜地で富士山がよく望みできたといえます。元禄11年(1698)、將軍家の別荘である白銀御殿(麻布御殿、富士見御殿などともいう)ができました。富士見町の名は明治5年(1872)につけられましたが、白銀御殿の別名富士見御殿にちなんだものだとされています。

あざぶほんむらちよう 麻布本村町

古川の谷へ南面する台地から傾斜地にかかっており、古くから住居好適地に選ばれたことは貝塚の存在することでもわかります。阿佐布という地名は当初このあたりを指したものと推定され、本村とは元村すなわち麻布の中心の意味といわれています。

あざぶもりおかちよう 麻布盛岡町

延宝年間(1673~1681)、すでに奥州南部藩南部氏の邸地となっており、そのまま明治維新まで続きました。明治5年(1872)、盛岡町と命名したのは、南部氏が盛岡城主であったためです。

Azabu'hiroo-chō
There are various views concerning the origine of this town's name. This place is said to have been variously called such as *Hirooka*, *Hirao* or *Hirono*, but no one knows for sure.

Azabu'shinhiroo-chō 1-chōme - 3-chōme
Some of the dwellers in *Azabu'hiroo-chō* moved out to this place which became a new town called *Azabu'shinhiroo-chō* (*shin* meaning "new"). The avenue number began from 80th in a new town while the last of it was 79th in *Hiroo-chō*.

Azabu'shinbori-chō
The town's name comes from the *Shinborigawa* river (or *Furukawa* river) runs along the eastern and the southern boundaries of the town.

Azabu'takeya-chō
The town's name comes from *Takegaya* ("bamboo growing valley") popularly called in old times.

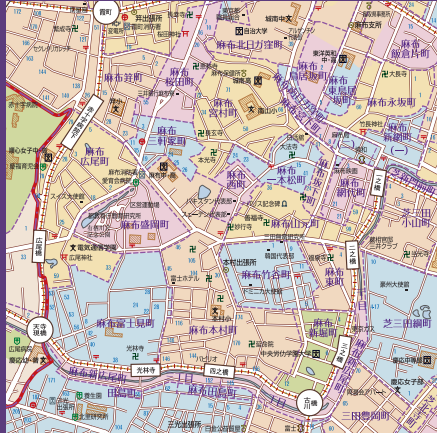
Azabu'tajima-chō
This place was surrounded with rice fields during the times from Genroku (1688-1704) to Kyohō (1716-1736). It might have been called *Tajima-chō* meaning "island-like town surrounded by the rice fields".

Azabu'fujimi-chō
The town's name *Fujimi-chō* was given in the 5th year of Meiji (1872). It is said to have been named so after the *Shirakane* Palace known as the *Fujimi* Palace which literally and actually commanded a view of Mt. Fuji.

Azabu'honmura-chō
Azabu is supposed to have originally been the name of this vicinity, the word *honmura*, sometimes represented as *motomura*, meaning the central part of *Azabu* area.

Azabu'morioka-chō
During the Enpō era (1673-1681) this place was the estate of the *Nambu* Family, the lord of *Nambu of Ōshū*, which had continued until the Meiji Restoration. In the 5th year of Meiji (1872) the place was named *Morioka-chō* after the *Nambu* Family, also the lord of a *Morioka* castle.

昭和20年代の港区地図



現代(平成18年)の港区地図



音声ガイド
このボタンを押すと
旧町名の由来を
音声でご案内します